



山大の社員と共に木の天板の取り替え作業に挑戦する飯野川小の児童

「みやぎSDGs塾・実践コース」では毎回、SDGs関連の実践事例をもとにディスカッションしています。今回は山大リコージャパン、宮城県障害福祉課などの実践報告に参加者の注目が集まりました。

**【地域の学校に地元産木材を提供】**  
石巻市で木材生産などを営む山大は今年3月、自社で製材したスギ板を石巻市立飯野川小学校に提供しました。同校では卒業を控えた6年生が古くなった机の天板を新しく付け替える活動に取り組みました。

「実践コース」に参加した山大の三上明



障害のある人の社会参加をサポートする「障害者官民応援団」の賛同企業募集チラシ

子さんは「地域の子どもたちに地元産の木の手触りと香りを感じてほしい。この事業を地域の他の学校にも展開できるように、社内で検討している」と説明しました。

**【障害のある人の自立を支える】**  
宮城県障害福祉課の大内佳さんは「障害者官民応援団」について説明しました。障害のある人が働く事業所に対し、賛同企業が継続的に作業を依頼するなどして、障害のある人の社会参加や収入増を支える試みです。大内さんは「この取り組みの周知を図り、賛同企業を増やしていきたい」と今後の目標を語りました。

**参加者の声** **伝える力を磨きたい**

互いの「活動宣言」を読む合評会を通し、私自身の考えを文章で十分に表現できていないと感じました。今後は伝える力を磨き、SDGsに向けた思いを共有できる仲間を増やしていきたいです。



松島蒲鉾本舗 葛西健太郎さん

**【顧客とともにSDGsを考える】**  
リコージャパンの吉岡瑞恵さんは同社の「サステナ見える化ツール」について紹介しました。リコージャパンの担当者として顧客企業の担当者と面談を通じ、「廃棄物の削減」「男性の育休取得」「情報セキュリティ対策」など具体的な項目についてチェックすることで、顧客企業の現状と課題を持続可能性の観点から可視化しようとするものです。

吉岡さんは「このツールを活用することで、お客様のSDGs関連の取り組みも弊社がサポートしやすくなる」と解説。事業を通じて持続可能な社会を目指す試みであることを強調しました。

みやぎSDGs塾って？

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGsファーム」の基幹プログラム。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成する「標準コース」と、具体的な事例の発展に向けて議論する「実践コース」の2講座が開講され、2021年から河北新報社が運営しています。

参加はこちらから！

**みやぎSDGs Farm**  
賛同企業 募集中!!

公式HP 

お申し込み・問い合わせ  
河北新報社営業局  
TEL / 022-211-1318  
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

**わたしのSDGs活動宣言**  
「地域とともに築く未来」  
山一地所 原田千純さん



「山一地所さんの物件でお世話になっているよ」「引越して数年、日に日に仙台が好きになっていきます」  
当社主催のイベントにご参加された方々からのお言葉です。暮らしに関わる仕事に従事する者として、直接このようにお声がけをしていただけたことがうれしくてなりません。

当社は住まいに関わるサービスをワンストップで提供する総合不動産会社です。私は主にお客様や地域の方々を対象とした催事の企画運営を担当しています。地元のお祭りや清掃活動へ参加し住民の方々と交流する機会を積極的に設けるほか、仙台のスポーツチームや地元企業への協賛を通じて地域の活性化を図っています。

笑顔でイベントに参加される方々の様子を見て、地域への貢献意識が一層高まるのと同じ時に、かえってこちらがその活気に鼓舞されることも多々あります。地域と会社の架け橋ともなるこの活動が、より良い社会を築くための大切な一歩になっているのだと実感しました。

この街に暮らす人々に寄り添い、誇れる故郷を未来へ継承していくこと。みやぎSDGs Farmでの活動を経て、当社の事業内容や自分の仕事に改めて大きな価値を見出すことができました。これからもみやぎSDGsアンバサダーの一員として、誇りを持って業務に励んでまいります。

- 第3ターム参加者(敬称略) ●
- 【あすなる学院】 齋藤学【荒町商店街振興組合】 庄子康一【YES工房】 大森丈広【エントデザイン】 佐藤寛和【オフィス塩騒】 加藤貴伸【環境再生保全機構】 【高速】 高橋篤【国分東北】 佐藤悟【スタイルグループ】 千田佳子【ソニービープルソリューションズ / 多賀城工場地帯連絡協議会】 大谷哲也【タイハク】 長坂孝裕、南條世紀【竹鶏ファーム】 赤淵利恵【蜂屋食品】 蜂屋和彦【大日本印刷】 阿部巧、矢島迅人、森勇大、小泉一也【日建リース工業】 工藤雅人、鈴木健太郎【フクダ・アンド・パートナーズ】 加藤祐、阿部真美【松島蒲鉾本舗】 葛西健太郎【宮城県民共済生活協同組合】 草薙聖樹、遠藤早織、長谷朋佳、佐山道大、鈴木良太、長牛麻美【ミライトス】 鈴木圭介【山一地所】 原田千純、熊合健太郎【山一】 高橋拓宏、本郷友恵、三上明子【WACO CREATE】 岩村和哉、岩村優香【個人】 千葉よかこ【尚綱学院大学】 大沼晃太郎、猪野拓歩【宮城大学フードサービス論研究室】 齋藤真里奈、曾根咲桜、高屋奏太、永澤美咲、由比一光【オブザーバー】 紅色晶子、高橋好郎、高浦康有

● 賛同企業・団体・個人 ●

宮城県民共済、SUICO、DNP 大日本印刷、ERCA 独立行政法人環境再生保全機構、SHOKEI 尚綱学院大学、日本製紙株式会社、みやぎ生協、山一地所、yamadai、あすなる学院、エントデザイン、株式会社 高速、国分東北、STYLES GROUP、竹鶏ファーム、日建リース工業株式会社、蜂屋食品、F&P フクダ・アンド・パートナーズ、松島蒲鉾本舗、荒町商店街振興組合、YES工房、オフィス塩騒、多賀城工場地帯連絡協議会、WACO CREATE、千葉よかこ、特別協力 SDGsとうほく、協力 宮城県、JICA東北、尚綱学院大学SDGsセンター、宮城大学フードサービス論研究室

第3ターム

**みやぎSDGs Farm**

第25号

2024年4月29日(月・祝)

発行：河北新報社営業局  
特別協力：SDGsとうほく

各分野の実践事例に学ぶ

3月22日、「みやぎSDGs塾」第3ターム前期・第5回の講座が河北新報社で実施され、受講者が各企業の事例報告などを通して学びを深めました。

標準コース 新たなアンバサダー誕生



互いの宣言文について意見を交わす参加者

**【仲間の決意を読む】**  
「みやぎSDGs塾」第3ターム前期の最後の講座(第5回)となったこの日、「標準コース」の受講者は最終課題として書いた「わたしのSDGs活動宣言」を互いに読み合い、感想や意見を語り合いました。活動を終えた参加者は「文章を書いた自分



新たに「みやぎSDGsアンバサダー」となったメンバー

分がわかっていても読み手には伝わらないことがあると痛感した」「具体的なエピソードがあったほうがよい」という指摘が参考になったなど感想を話しました。今回の講座をもって「標準コース」を修了した20人の受講者は新たに「みやぎSDGsアンバサダー」として認定され、社内外でSDGs活動を広めていく役割を担うこととなります。